

Tokyo Bible Seminary 東京聖書学院 学院だより

2013年
秋号 [合併31号]
11月15日発行

発行所/〒189-8512 東京都東村山市廻田町1-30-1
[東京聖書学院] 042-391-3076 fax.042-397-7558 郵便振替00190-0-78949
[聖書学院後援会] 042-394-8791 郵便振替00170-8-136685

このことばを伝えたい

その響きは全地にあまねく、
その言葉は世界の果てにまで及ぶ。
(詩篇19:4)



東京聖書学院准教授
千代崎 備道
Chiyozaki Tomomichi

自分が修養生として学院で学んでいたころ、授業がたびたび聖会になりました。始まりは聖書の学びですが、途中から御言葉の解き明かしとなり、神の深い御心が示される。これまでも良く聞いていた聖書の言葉が光るように心に迫り、新しい信仰の世界が目の前に開かれていく。まさに「聖言うちひらくれば光をはなちて」(詩篇二九篇三〇節・文語訳)とある通りです。自分が聖書学院で教鞭を執らせていただくときに、単なる知識の伝達ではなく、あのような生きた御言葉体験を伝えることが出来れば、と切に願っております。

この詩篇一九篇において詩人は、自然界を通して示される創造主の栄光を、特に太陽を例に挙げつつ語っています。そして、その太陽よりも勝る聖書(当時の人にとっては律法)の素晴らしさを後半で述べ、この御言葉が自分を罪から救う道であることを証しています。自然を通して示される神の栄光と、神の言葉を通して示される神の救い、経験と神学とが見事に調和して語られています。この書かれた神の言葉と、大自然を通して示される、文字にならない「ことば」とが世界中に響きわたっているのです。

私たちは言葉を用いてキリストの救いを伝えます。しかし、言葉だけでなく生活を通して、生きた信仰が証しされることも大切です。どちらかだけでは伝わらない。生活を伴わない言葉では信頼されない。でも行いだけで言葉無しに伝えることにも限界があります。言葉と行いが分

離していてもいけません。自分自身が御言葉に生かされる体験から滲み出る、言語にならない「ことば」と、どうにかして伝えたいと愛を込めて語る「言葉」とが一致していくとき、不思議なように相手の心に伝わっていくのです。

聖書学院は伝道者の養成が使命です。多くの本を読み、暗記することだけで伝道者が生まれるのはありません。また、特別な体験だけに頼るのではなく、生活も学びも共に必要です。また教える者と学ぶ者の人格的交わりを通してなければ伝えることの出来ないことがあるのです。寮生活にこだわり、伝道者・牧会者が教えることを重んじることも、それが、献身者が伝道者へと建て上げられていくために不可欠であると、これまでの聖書学院の歴史において痛感されていたからこそ、大切なこととして守られてきたのです。確かに、修養生の生活は大変でしょう。勉強だけすれば良いのではなく、生活の全て、また教会奉仕の全てを通して訓練を受けることの厳しさは、並大抵ではないかも知れませんが、しかし、その中で神が私に語りかけてくださる恵みを知るとき、この「言葉ことば」を伝えないではいられない。そこに伝道者の原点があるのです。

伝道者や修養生だけではありません。クリスチャンは、生ける神のことばである主イエスにより救われ、御言葉の約束をいただき、聖書により養われている者として、この生きたみことば、命ある御言葉を、言葉の証しを通して、生活そして人生を通して伝えるために召されているのです。

夏期伝道の証し

本科二年 志賀 初江

この夏の夏期伝道は、坂戸キリスト教会に任命を受けました。

一学期、坂戸キリスト教会に任命を受けたとき、へ私のような者に何が出来たのだろうか？と、恐ろしくさえ思ったことを覚えてます。

夏期伝道中、教会に住まわせていただくという、この三八日間は、私にとつても貴重な、また大切な期間となりました。

夏期伝道が始まり、すぐCSのキャンプがありました。たくさんの方々が教会へと導かれ、最後の集会ではほとんどのキャンパーが、牧師の招きに応じました。「洗礼を受けた」と、自分の口で、はっきり言い表した子も数人いました。

牧師、CS教師、また教会員の皆さんの、篤い祈りの中で待ち望み、備えてきたキャンプは、御霊のお導きを感じました。そして、くつたくなの満面の笑みで、イエスさまを信じている、純粋な幼な子の魂に

ふれ、へ私は、本当の意味で、この子ども達のように神さまを、信じているのだろうか？と、示された思いがしました。

また、青年女子達の教会での、お泊り会にも仲間に入れていただきました。もちろん牧師のメッセージがあり、共に賛美し、祈り、共に教会に集いながら、教会の中だけでは分からなかった人となりを、参加したそれぞれがお互いを知ることができ感謝でした。また今まで、あまりお話しする機会がなかったけれど、お一人おひとりとゆっくりお話しすることができ、とても楽しいときを過ごすことができました。ことに、主の恵みを感じます。本日に「一つひとつのことが、『見よ、今は恵みの時、見よ、今は救いの日である』(Ⅱコリント六章二節)の御言葉を実感しました。

夏期伝道期間最後の日は、「バイバイまつり」でした。ご近所から本場にたくさんの方々がみえました。

前日の朝から、男性達が大きな竹を切つて来て、流しそうめんが

多くの信徒の方々と私とを互いに励まし、そして慰め合う絆の基となつたのです。

「主のみ手が彼らと共にあった」
(使徒行伝十一章二十節)

私にとつて初めての南西教区、そして初めてとなる離島の教会への派遣・奉仕という事で、チーム派遣とはまた違う緊張や準備の負担を感じていました。しかし、任命先として私を受け入れて下さる沖永良部キリスト教会の羽佐田創世先生からの丁寧なスケジュール調整や、送り出して下さった聖書学院の先生方やスタッフの方々の細やかなご配慮、修養生仲間や母教会をはじめとする背後にあつて積んで下さっている多くの方々のお祈りやお支えのゆえに、私の体調と霊性、そして移動中の天候は出発から到着まで丸一日以上もかかった空路・海路にあつても、ずっと守られたものとなりました。

そして、さらに現地入りしてからは、まさに「主のみ手が彼らと共にあつた(使徒行伝十二章二十節)」としか思えないような祝福の出来事が、訪れた先々で起こつたのです。

羽佐田先生が沖永良部教会と併せて任命を受けられている徳之島伝道所滞在中には、沖縄・渡嘉



「バイバイ祭り」にて
じゃんけんゲーム担当。
手前が志賀修養生。

できるように、竹を汗だくになり皆で加工してしました。給食部の方々や、かき氷、ウインナー、クレープなど担当された方々も、前日から準備です。準備をしながら、「毎年、お祭りが大きくなっているのよ」と、うれしそうに話してくださいました。

CSキャンプのときにも感じたことですが、このお祭りでも、先生方はもちろんのこと、教会員の皆さまが、祈り、喜んでご奉仕をされていて、都合で直接関われなくても、祈りのサポートがなされていたことを感じました。そして、CS教師による紙人形を使った朗読劇は、圧巻でした。

この夏期伝道期間中、「私には、とても無理です！」と思うこともありましたが、しかし、神さまは、『わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる』(Ⅱコリント十二章九節)という御言葉をもって、この夏期伝道期間、教会での貴重なご奉仕を、初めから終わりでまで導いてくださいました。

この足りない者を、郷家二三先生・清子先生、土屋勇人先生・梨乃先生、勸士、役員、そして教会員の皆さまが、主にあってお心にかけてくださり、祈り支えてくださっていました。心から感謝申し上げます。



徳之島伝道所で説教・証詞をする
森川修養生

敷島での沖縄福音同盟のバイブルキャンプにも参加させて頂き、講師の先生からはそのメッセージの豊かな恵みだけでなく、説教者・牧会者の先輩として、そのご奉仕に対する誠実な姿勢や鋭い感性を本当に多く学ばせて頂きました。

また、スタッフや引率として来られていた先生方は聖書学院の大先輩でもある牧師先生でしたから、修養生でないと決して分かち合えないような交わりやお祈りも共有させて頂きました。それらの先生方からは、ご本人だけでなく、教団内の他の先生方とのエピソードやその人となりなどもふんだんにお話下さいましたから、私自身もその都度、自己紹介をさせて頂くような形で、自らの救いや献身、潔めの証しをさせて頂く機会に数多く恵まれたのです。

そして、そのキャンプ中であつてさせて頂いた証しや先生方のご好意によつて、後日、それぞれの先生方

が牧会されている教会での説教・証詞奉仕のお招きにも与り、最終的には既出の二教会を含めて、大島喜界、那覇、糸満、宜野湾、高原の南西教区全ての教会に伺わせて頂く事ができました。

「しっかりとせよ。あなたは、エルサレムであかししたように、ローマでもあかししなくてはならない。」

(使徒行伝三章十二節)

新約の使徒達は、エルサレムでの忌むしい挫折や試練、そしてそこで聖霊体験の取り扱いによって、その後、世界の都ローマまで広がった宣教の働きへと導かれていきました。そして、そのような主の深い摂理と深い憐れみは、私にとつても今年の夏、南西教区の先生方の尊い道備えによつて、豊かな交わりと幸いな証しの機会に恵まれた続けた祝福となつたのです。

主の御名を心から賛美します。

しかし、そのような未熟な献身者として、まだまだ十分に整えられていない私自身であつても、この聖書学院での学びと訓練の中で、神様が聖書の御言葉を通して与えて下さったその取り扱い、今年の夏、神様ご自身の栄光を現す証しとして、奉仕として、祈りとして、南西教区の牧師先生方や各教会の

行事予定

- ・12月11日(水)～13日(金) 構内奉仕作業
- ・12月16日(月) TBSクリスマス
- ・12月25日(水) クリスマス伝道期間終了
- ・12月26日(木) 家族伝道期間開始
- ・1月 3日(金)～13日(月) 2・3年生聖地旅行
- ・1月 6日(月) 家族伝道期間終了・帰寮日
- ・1月13日(月) 各教区新年聖会奉仕
- ・2月27日(木) 第二回入学願書締切
- ・3月 5日(水)～7日(金) 3学期末試験
- ・3月 7日(金) 第二回入学試験
- ・3月 9日(日) 卒業生最終ミッション
- ・3月12日(水)～14日(金) 構内奉仕作業
- ・3月16日(日) 在校生最終ミッション
- ・3月19日(水) 卒業式

事務局だより

・六月二四日から二六日まで、新約学がご専門のトーマス・R・ヨルダーニューフェルド先生をお迎えし、「賜物と召し」というテーマで牧師研修会が行われました。修養生やスタッフを含めて、約七〇名が受講し、エペソ書から学ぶときを持ちました。

・一〇月七日から一一日にかけて、本科年生、訓練生、インターン生、佐藤義則舎監の五名が岩手県宮古市にて、震災復興ボランティアに参加しました。宮古では、学院卒業生の岩塚和男牧師が牧会する宮古コミュニティチャーチや、三二一いわて

教会ネットワークと連携して、仮設住宅でのモバイルカフェや学童保育での奉仕をしました。

・来年一月三日から一三日まで、団長の水間照弥教授をはじめ、本科二、三年生合計一名がイスラエル研修旅行に出かけます。旅が守られますようにお祈り下さい。

・二月五日(土)の午前二時から午後二時半まで、信徒コース集中講座「社会人クリスチャンの悩みと喜び」を東京中央教会にて開講します。講師は、佐藤彰兄(横浜いずみ教会)と青木勝兄(インマヌエル中目黒教会)です。詳細は、各教会に配布されるチラシをご覧ください。



後援会

「つもり献金」

活動報告

つもり献金のご協力を感謝します。

2013年11月4日(月)の
学院デーに
「つもり献金」を

持参された**15名**の方に、「鉢花」を
プレゼントしました。

今年も11月4日の振替休日に、学院デーが行われ、
180名の方々が集まりました!



今年の修養生・訓練生による特別讃美は「地の塵に等しかり」でした。みなさんいい顔で讃美しています。



今年度より准教授に就任された、千代崎備道先生のクラスは、お隣のOMSミッション教会で行われました。

学院デー写真集



開会礼拝では、錦織寛院長より、ローマ人への手紙12章1節から「神に喜ばれる供え物として」と題して、メッセージが語られ、大きなチャレンジを受けました。



修養生・訓練生タイムでは、修養生・訓練生が入信や献身の証しをしたり、参加者の皆さんのご質問に答えたりしました。

私が担当したコースを紹介します。

Cコース「格差社会の弊害を斬る預言者の使信」担当 石原 潔



毎年学院デーでは、旧約聖書の学びを共にしてきました。今年は預言者アモスから彼が生きた時代背景と共に、そのメッセージの内容に出来るだけ深く触れ、それが現代の私たちに如何なる語りかけをしているかを学びました。

午前は、アモス書の概論を、聖書全体と旧約聖書における位置づけ、著者としてのアモスの人物像など、特に彼の召命体験を核としてアモスの生き方の特色を学びました。同時にそれは避けることの出来ない時代を反映していることを、当時の南北両王国のバブル期(経済復興)との関連で、そのプロセスを確認しました。

午後は、アモスに託された神の鋭い使信を、彼独特の手法を用いて伝えているテキストを、構成に即して考察しました。アモスは特に神の審判の理由として、「神の正義と公義」に反する民の生活に焦点を合わせています。すなわち格差社会に潜む拝金主義の実態にメスを入れて告発しています。それは現在の社会にも共通の課題であり、また「悔い改め」を拒否し続けた心の頑なさや良心を麻痺させ「神の言葉の飢饉」を招き、国の滅亡へと導く結果となることを確認しました。しかし、審判が審判のためではなく、救いのためであることを学ぶ時となりました。

献金者御芳名

尊いご支援を心より感謝を申し上げます。

【個人】 相川香代子／青森正統／浅井枝／朝木郁子／芦田英子／芦田道夫／阿部しげみ／新井幸枝／新川和枝／有村美恵子／飯島延浩／飯島牧子／飯島庸江／飯塚君江／飯田涼子／五十嵐漢子／伊川英子／生嶋伸介・菜緒子／池田久子／池田雅行／池田洋一恵子／池原節江／池本善彦／石井栄治／石居征江／石川房子／石沢アヤ子／石田一敏／石田摂子／石田雅徳／石塚正／石橋てる／石原和夫／石原洋子／石渡幸子／石渡晃子／泉久子／磯村陽子／井瀧忠雄／伊藤貞夫／伊藤久子／伊藤秀子／伊藤博／伊藤美恵子／伊藤皓夫／井戸口洋子／井上牧子／猪狩勲・鞠子／猪瀬昇／井本進／岩崎しのぶ／岩月雪江／植田大輔／上野令子／上野広志／上原貞子／上原四郎／上原光枝／上原良子／上原るり子／梅津悦子／ト部伸子／漆間光男／江田喜久子／蛸原早苗／遠藤正治光江／遠藤寿男・光子／遠藤知夫／大岡俊雄／大川アイ子／大熊多恵／大倉政市／大坂正二郎／大崎隆一洋子／大谷博秋・敏江／大津和子／大塚義徳／大橋栄一葉子／大見節子／大村昌夫／大森孝子／岡澄子／岡本真理多／奥村瑠子／長内敏雄／尾野さつき／小野泰子／小幡啓子／於保とみ子／於保治樹／尾藤寛江／葛西健二／葛西恵子／笠松延喜／加治佐裕子／梶永光洋・富美枝／加藤萬智子／角谷ひで子／要守・涼子／金森克雄／金子清子／金子裕／金本悟／壁内節雄／鎌田悦／神谷範雄／亀井徹夫／亀山美枝／川崎直子／河野正之／河野淑美／川端哲夫・永子／河原愛子／川原光子／河村孝子／神田英資・秀子／菊地新／菊地敏子／菊地百合子／北川栄子／北川孝彦・高代子／喜田川富貴子／北川政雄／北川雅子／北村愛子／北村信雄・寿子／紀仲靖彦／木野和夫／木村公一・靖子／木村美世／木室義孝・峰代／清永ひとみ／金基哲／金城ヨシ子／國松久永裕子／久保井利郎・栄子／熊谷節子／倉重敏子／藏本東子／栗島省司／栗島其枝／栗田征雄・

文字／栗原義忠・園江／呉信／黒阪幸江／桑原みどり／小池幸子／恋田久代／小嶋幸海／小島廣子／児島まつ子／小嶋眞理子／小代昇二／後藤朝子／後藤千佳子／小西純子／小林幸子／小林重昭／小林恒子／小林ひとみ／小林光生／小峯由美子／近藤咲江／近藤寛子／今野比登美／今野啓子／西條秀明／斎藤悦子／齋藤繁實／斎藤孝志・満江／斎藤ますみ／斎藤紫乃子／酒井忍／酒井有希子／坂本明博／坂本みちる／櫻井博之／座古秀子／佐々木日出子／佐藤彰／佐藤朝人・幸子／佐藤佳治／佐藤繁／佐藤節子／佐藤眞子／佐藤信人／佐藤康子／佐藤裕子／佐藤義則／澤田輝彦／塩田綾子／塩田勇／穴戸徳子／篠崎新／島田柳作／島千代子／清水鈴子／清水俊夫／下澤保・正子／下田洋子／庄司忠史・マリヤ／城之内よし／白石三根子／新合正明・道子／新川和枝／新行内佐代子／進藤幸子／新野美佐子／杉山雅一／須崎登規子／鈴木勇・眞佐子／鈴木経人・増子／鈴木浩一・知恵／鈴木浩一裕子／鈴木英夫・鈴木英夫・久田博／鈴木芳恵／鈴木義也／須永三子代／住吉明子／関根裕美子／関野勝海／瀬田桃代／瀬田善文／園藤慈和子／高塩竹子／高橋恵市・たつ子／高橋五子／高橋智恵子／高橋勲・佳代／高橋長雄／高橋睦子／高橋要介／高内晴彦／竹内義晴・真理／竹原勝／田塩富子／田尻重子／多々良ミヤ子／田中和子（三鷹）／田中啓造／田中政彰・恵子／田中知子／田中寿代／田中綾子／田辺房枝／谷原喜久子／玉田明／玉田正昭／野村勝子／田村由紀子／檀原久由／千野恵津美／塚原次雄・扶美枝／津山靖子／露崎セツ子／寺内公一／登内洋子／徳田礼子／登内規夫／豊福さみ子／混谷幸代／内藤潤司／永易芳子／中江千力／中江千可／中川民子／中島淳元・久子／永田朝美／長塚啓子／中西雅裕・わくり／中道善夫／中道由子／中村一彦／中村キヨ子／中村しむ子／中村哲寿／中村美美子／中村美智子／中村光恵／中村恵一・日登美／中村泰子／中山永治由子／永山進／永山千恵子／中山均／那須

美保子／奈良橋央之・暁子／新野美佐子／錦織淑子／錦織博義／錦織充／西嶋隆志／西古屋陽子／西松康子／野口義弘／野崎敦子／野村明子／羽佐田紀子／羽佐田弘／橋本道明／橋本幸夫・文字／長谷川義朗・友子／畑中二子／肥後秀城・直美／久田博／混谷幸代／日野めぐみ／日比野四郎／火物喜代枝／平井喜子／平岡充満子／平尾邦子／平川礼子／平田武一・光子／廣石護／広瀬啓子／深澤英子／福井久里子／福岡和子／福島真知子／福田朋子／福田実恵子／福田安男・美代子／福田幸男・幸子／福原直道・ノリ／藤岡初子／藤沢洋大・節代／藤澤美枝／藤波尚美／悦子／藤本さだ子／藤原信彦／藤原裕美／藤野美恵子／藤巻充／伏見かつ／藤邨悦子／藤本さだ子／藤原信彦／藤原裕美／淵野高／文野光弘／古川幸代／古川守小百合／文屋正道／文屋白子／甫足守朗／本郷勝江／本田礼子／牧野アサ子／正岡愛子／増岡いずみ／益子雪子／増田綱二・増淵日出子／松尾妙子／松木信義・桂子／松島勝己／松島勝己・米子／松田茂子／松田秀子／松長共栄／松永雅雄／松野太・松久順子／松村百子／松本順・由美子／松本宣子／松山典子／間室照雄／丸岡文信／三浦修・ヒデ子／三島孝子／水島和夫／水野節子／水野博／清呂木幸子／清呂木徹／寶島典代／宮氏肇・愛子／宮崎聖蔵・清美／宮平光次郎／三好大佳子／村井あつ子／村井淑子／村上明子／村上宣道・幸子／村上浩／村上実依子／目崎由紀子／本村ミヨ子／森留里／八木トク子／安井聖・矢ノ中泰江／矢花清／谷部栄子／山崎聖美／山崎武子／山崎裕治・千鶴子／山田直司／山田宣子／山崎治行・千鶴子／山田直司／山田智明・由紀子／山田宣明／山辺幸子／山本出／山本耕子／山本松治／横尾嘉子／横須賀千賀子／横田みち／吉田英郎・禮子／吉田弘子（多摩）／吉田弘子（横浜）／吉浜シゲ／葭原由子／吉村公子／吉村京子／吉村耕治／米澤初音／脇田和仁／和田忠三・安子／渡辺和子／渡辺きみ／渡辺重光／渡辺利信／渡辺百合子／渡部賢治・さい子／福岡教会匿名／学院教会無記名

【教会】 赤湯・綾瀬／新井／荒川聖泉／池の上／伊東／糸満／今治旭方／上池／ウォールナットクリーク／日系キリスト教会／宇治／美しが丘クリンソチャペル／青梅恵み／大網／大阪／大阪栄光／大宮／小見川／学院／鹿児島武キリスト／柏／蒲郎／上池／亀有福音堂／川崎／喜界／本場深川／キリスト兄弟団小田原教会／熊谷／小平／坂戸／札幌／サント・クララバレー日系キリスト教会／静岡／柴又／白鷺／信愛小金井／仙台／善隣キリスト教会／袖ヶ浦／宝塚／立川栄町／榎岡／茅ヶ崎／中央／調布／鶴見／鶴見栄光／東京若枝教会／戸田／栃木／豊中泉／長井／中川／中山／那覇／長谷聖書集会／秦野／八王子／浜松／ひばりが丘／鉦田／松本／松山／松山桑原／丸亀聖書教会／岬／三沢／三鷹／壬生川／茂原／山形／横芝／横浜いづみ

【団体】 上野教会サフラン会／黄内科医院／近畿教区連合壮年会／東京中央教会婦人会／那覇教会シオン会／那覇ハンナ会／日本ホーリネス教団／廻田クリニック／横浜教会壮年会

【つもり献金】 相川紀子／新井幸枝／井瀧忠雄／井下泰文・遠藤正治／大津和子／大野めぐみ／國松久永・裕子／幸田美栄子／小嶋雪海／塩田綾子／鈴木睦子／高松明／高松紫音／高松みずき／藤巻充／本田礼子／増岡いずみ／矢ノ中泰江／渡部賢治／調布教会／ひばりが丘教会／学院教会無記名

東京聖書学院

（〇一三年八月日）（〇月二十日）

【個人】 飯塚弘道・由梨子／池田修三／小寺政子／今野啓子／齊藤善樹／佐藤義則・良子／中西雅裕／林部愛十／松本千雅子

【教会・教団・団体】 青梅恵み教会／狭山シヤローム教会／東京中央教会／横浜教会壮年会／九州教区

【光熱費献金】 学院教会女性会

【会堂維持献金】 学院教会

【メモリアル献金】 キャロリン・エタソズ

第16回

夏季ワークキャンプ



今年度は8月12・13日、大変暑い中でしたが、花壇の草取り整備、建物周辺の草刈り、エンジン動力機械による芝刈り、駐車場周辺の桜の枝切りなどを行いました。

参加延べ人数は12日31名、13日28名、合計59名でした。（延人員の表現は半日のみ参加者や子供も含まれる、熱中症など体調不良者なし）。昼食時には、両日ともインターン生の証詞があり、12日夕食時にはBBQで和気藹々の交わりもあり、学び舎環境美化整備の目的を果たすことができました。参加者のご労、又送り出して下さった所属教会のご協力を感謝いたします。

以下は参考のデータと、私的な感想です。

●参加教会13 川越・入間・調布・西落合・ひばりが丘・学院・青梅・中央・八王子・本田・木場深川・立川栄町・修養生。

●宿泊者は6名、・青年と子供は5名、牧師教職4名。

●費用 弁当飲み物・BBQ食材費など51,000円。
資材消耗品・廃棄物処分料など28,000円。

若者や子供達の参加も感謝でした。それは、若者たちがTBSについて、このような作業・奉仕を通して「牧師・伝道者の養成施設、福音宣教の発信基地」の体験が心に刻まれ、将来の献身に繋がればいいと思いました。

Summer Work Camp



2013年度 第4回 園芸ボランティア

10月15日（火）今年度4回目の学院ボランティアは大型台風接近中というニュースの中で行われました。

今回は8教会より20名の兄弟姉妹が参加しました。天気予報は台風の影響で昼ころから雨になるとのことでしたので、作業は草取りを中心に午前中めやすに行いました。

花壇の花の植え替えは中止しましたが、水仙の球根の献品（約200株）がありましたので、チャペル南側にあるブロンズ像まわりにびっしりと植えました。堆肥も十分に入れましたので、春にはきれいな白い水仙が咲きそろうと思います。

寮、食堂など建物前面の花壇内の草抜き、図書館棟、

職員住宅周りの草刈りをほぼ終わったお昼前頃にポツポツと雨が降ってきました。抜いた草や、道具を片付けた頃には予報通り本降りになってしまいました。キッチンスタッフの方たちが用意してくださった美味しい食事（秋の味覚サンマなど）を頂きました。

参加して下さった皆さん、雨の中尊いご奉仕を有り難うございました。

食事の時間には前の週に東北（宮古）震災ボランティアに行った修養生たちの報告と証しも聞くことができ、感謝でした。

なお、今年度の最終作業は、3月の卒業式直前（3/11）を予定していますので、またご協力よろしくお祈いします。



東京聖書学院を支える会員となってください。2013年度は、後援会から聖書学院へ1,100万円のサポートをします。もし、ご献金下さる方は、次の手続きをご利用ください。

同封の赤い振込用紙で最寄りの郵便局から振込んでください。送金手数料は受取人払いです。金額にかかわらず、お振り込み下されば、「会員登録」となります。また、郵便局に行かずに振込みの手間を省く、「自動払い込み」を利用いただくと便利です。振り込み金額や振込み月日を予め登録しておけば、自動的に送金されます。途中での変更も可能です。振り込み手数料も、半額以下の1件につき25円ですみます。(自動振込申込書は、ゆうちょ銀行・郵便局でも入手できます。振り替え口座番号:00170-8-136685)

聖書学院で学ぶ献身者・修養生のため、将来のホーリネス教団・キリスト教界のため、一人でも多くの方が祈り、後援して下さいようお願いいたします。

各教会の中に、
『**聖書学院の後援会世話人**』を
置いてください

後援会からお届けする、学院だより、後援会ニュースやカレンダー、祈祷カードなどを配布し、PRしていただく方を求めています。まだ、半数近い教会で牧師先生がその任を負っています。又、聖書学院への献金を教会単位や、家族単位で取りまとめて郵便局より、世話人の方が送金して下さいと大変助かります。

後援会会長代行 遠藤正治



支えます、献げます、
祈ります。

東京聖書学院後援会

〒189-8512 東村山市廻田町1-30-1
Tel.042-394-8791

振替・00170-8-136685

信徒コースサテライト校特別講座

「社会人クリスチャンの悩みと喜び」

今の時代、クリスチャンが職場に身をおきながら、「地の塩、世の光」として証することは容易なことではありませんね。
だからこそ共に悩み、それをも越える祝福に目を向けませんか。

日 時:2014年2月15日(土) 午前の部10:00～12:00 午後の部 1:00～2:30

場 所:東京中央教会(日本ホーリネス教団) 東京都新宿区北新宿1-24-12

講 師:佐藤 彰(日本ホーリネス教団横浜いずみキリスト教会会員)

青木 勝(インマヌエル綜合伝道団中目黒教会員)

受講料:2000円

資料作成の都合上、事前にお申し込みください。

お問合せは、東京聖書学院事務所
(042-391-3076)へ

(詳細は、各教会に配布されるチラシをご覧ください)